令和６年度　幼児教育研修（年齢別担任研修３歳児・第３回）
「子どもの発達と保育者の関わり」
～３歳児にとってあそび込むとは～
日時：令和６年１０月９日（水）１５：００～１７：００
会場：足立区生涯学習センター
講師：東京都立大学　　准教授　田中　浩司　氏

**映像や事例から、3歳児の心の内面と保育者の関わりについて学びました。**

## 「相手の気持ちを受け入れるとは」

### 場面 ①　砂場でプールを作る

K君が砂場にシャベルで穴を掘る。
深くなってきたところで水を運び、穴の中に入れ始める。

**K君 「プールの完成です」「できあがりだー」**
穴の中に水が溜まると、大きな声で喜びを表現する。

Yさんは、水を入れたバケツを4つ運び、砂場近くのテーブルに置く。
**K君はYさんをずっと見つめるが、持ってきてくれたバケツは使おうとしない。**

保育者はYさんに**「これ使っても大丈夫？」**と聞く。
**Yさん 「うん」**
保育者はK君に**「使ってもいいって」**と伝える。
**K君　「ん!?」**
K君は、Yさんの顔を見ながらバケツを手に取ると、水を穴に入れ始める。

K君は、Yさんから水の入ったバケツを受け取り、空になると手渡す。**K君とYさんの無言のやりとり**が続いていった。

**ポイント**

**保育者が代弁するだけでなく、「自分で言ってみたら？」と促す関わりも大切**

必要以上に大きな声で表現してしまうようなタイプの児は、大人に対しては気持ちを言えるが、友達に対して必要な言葉が言えず、繊細な言葉をもっていない。自ら進んで言葉を発信していけるような対応が大切である。

### 場面 ②　玉入れの玉を作る

絵本に出てきた玉入れの玉を作ることになり、作りたい子どもたちが新聞紙を丸めてテープやシールを貼って玉を作り始めた。

園庭から帰ってきたK君は、自分で椅子を持ち、
「どこに座ろうかな」と様子を見ている。
暫くして空いているところに座る。

保育者から新聞紙を受け取り、一瞬にしてぐちゃぐちゃに丸める。
保育者　　「テープは何色にしますか？」
K君　　「ピンク」

玉が出来上がると
K君　　「おっきいのだよ、ベロベロベー」
Y君　　「俺もでかい」
K君　　「でかくない」
Y君　　「でかい」
**K君とY君は少し言い合いになり、K君から乱暴な言葉が出てしまう。**
Y君は保育者に**「でかい？」**と聞く。
保育者は、**「大きいね」**と答える。

**ポイント**

**言葉の獲得は、自己調整（内言）につながる**

子どもが乱暴な言葉を言ったときは、「そんなこと言わないの」と注意しない。子どもから発せられる言葉が強い言葉や人を傷つけそうな言い方であっても、必ずしも気持ちが言葉通りではない。言葉を否定するのではなく、どう表現したら気持ちが伝えられるのかを知らせていくことが大事である。

保育者は、子どもの言った言葉を「大きいね」とさりげなく正しい言葉に直して伝えていくことも大切。

## 「仲間関係の育ちとは」

### オニごっこの場面

子どもたち「捕まった人は、オニやるんだよ。」
**A君　「そんなのわかってる！でもチャンピオンになりたいの！」**
B君　「捕まる時はいやだけどがんばってオニやって、ちょっと我慢したら次はチャンピオンになれるかもしれないよ。」
**A君　「そんなのわかってる！」**
**Cさん「私はオニをするのが楽しいよ。**逃げていると、**A君みたいに足の速い子に捕まえられちゃう**けど、オニになれば、皆で捕まえに行くから（ひとりじゃ捕まえられない相手にも）タッチできる。
子どもたち「あ、そうか！」

**同じ日…**
A君が捕まったことが悔しくて、靴下を運動場に放り投げた。
**A君　「靴下がないから、もうやらない！」**
B君「じゃあ、B君の靴下を半分貸してあげる」
A君（しぶしぶ靴下をかくが、ウロウロするだけで追いかけない。）
B君**「A君がいないと捕まえられないよ」**
**A君　（B君の言葉を聞いて走り出すと、一緒にオニとして捕まえる）**

オニごっこは、逃げるだけでなく、
本来捕まえることもおもしろいわけで…。
**様々な意見があることを知る経験である。**

**子どもにとって、自分が必要とされる経験はとても嬉しいものである。**
子どもから言われることが本当に心に響く。

**仲間を受け入れる『間』を大切にする**

子どもたちの育ちの中で、「一緒にやってみようかな」「仲間にいれてあげようかな」などと感じている。
保育者は、子どもたちの世界に着目し、心の動く瞬間を見守っていく。

## 3歳児の遊びを深めるために

### 子どもの声をきく、子どもの声をつくる

**表面的なvoice（声、言葉）**ではなく、**内面の思いであるview（見解）**を丁寧に見取る。

子どもは始めから、大人が言葉で伝えるような見解（意見）をもっているとは限らない。

何が不快だったのか？
探りながら見付けていくことが保育者の専門性である。

### 気持ちの流れを意識した保育

～大人の都合で動かしていませんか～

**気持ちの「切り替え」**について考える
遊びの盛り上がりのピークを見取り、配慮していく。

**たっぷり遊び満足する**
**お腹がすく⇒給食時間がスムーズになる**
**また遊びたくなる⇒片付けがスムーズになる**

**あそびの「連続性」**について考える
3歳児は、その日その日の充実が大事。
覚えていれば次の日も遊びが続くかもしれないが忘れてしまうことも多い。用意をしておくことが大事。

保育の中で**「待たされること」**について考える
一番初めに準備した人が、一番待たされることになる。
全員が一緒に動く必要があるのか考えていく。

## 研修生の報告書より

映像からK君は、友達との会話が少なく、うまく自分の気持ちを表現できず、強い言葉でしか伝えられないことがわかった。強い言葉を否定するのではなく、保育者がどの表現がK君の気持ちと合うのか一緒に考えていくことが大切だとわかった。

使って欲しくない言葉を耳にすることが多く、困っていた。「だめ」と子どもたちを否定すると「黙って」「話しちゃだめ」と言っているのと同じことで、子どもたちが話せなくなってしまうのだと知った。上手に修正できるように子どもたちの声に耳を傾け、子どもたちの声を聴いていこうと思った。

保育者の否定的な声かけを肯定的に変えることや子ども同士の関わりについて改善が必要だと感じていたところだった。3歳児の理解がx深まり実践につなげていける学びとなった。肯定や介入も必要だが、ときに友達の言葉で子どもが気付くこともあるという話はとても勉強になった。切り替えや待たされることについては、クラス間でさっそく話し合うべきだと感じた。

気持ちの切り替えについて、子どもが楽しんで遊びピークに達したあと落ち着いたタイミングで給食を迎えられるといいことを学んだ。気持ちの流れを意識した保育環境を考えていきたいと思った。たっぷりと遊ぶことで、また遊びたくなり片付けがスムーズになることがあると学び、片づけの意味を子どもたちと一緒に過ごしながら考えていきたい。